

ハイリスク薬を対象とした薬剤管理指導ガイダンスデータベースの構築

○大野逸子 阿部純子 柴田里枝子 宮村信輝 杉平直子

メディカルデータベース株式会社

【背景】

「特に安全管理が必要な医薬品（以下、ハイリスク薬）」を使用している患者に対する薬学的管理が診療報酬上評価されるようになり、日本病院薬剤師会や日本薬剤師会によって「ハイリスク薬の薬学的管理指導に関するガイドライン」が策定されている。本ガイドラインには、薬効分類ごとに標準的業務の指針が示されている。この指針をもとに、実務においては、個別の医薬品ごとに、多岐にわたる確認・指示項目を具体化させ継続的に管理することが必要となる。そこでハイリスク薬を対象とした薬剤管理指導業務支援ツールとしてハイリスク薬管理指導ガイダンスデータベースを構築した。

【方法】

ハイリスク薬に該当する約2300品目を対象とした。添付文書の重要な基本的注意、相互作用、副作用等の情報や、ガイドラインに記載されている「ハイリスク薬の薬剤管理指導で特に注意すべき事項」について検討し、医薬品ごとに9項目（適正処方，治療効果，アドヒアランス，重大な副作用，副作用，相互作用，生活上の注意，使用上の注意，飲食物・嗜好品の注意）の視点で確認・指示項目を抽出した。これを“管理指導プラン”としてデータ化を行った。さらに、確認・指示項目から想定される、患者から確認される情報（自覚症状等）や客観的情報（観察所見、検査データ等）、評価、指導に関する内容を SOAP 記録形式に従いデータ化し、管理指導プランに連結させることで、薬剤管理指導の一連の流れをガイダンスできるよう構成した。

【結果・考察】

ハイリスク薬の薬学的管理において、確認・指示項目の抽出から薬剤管理指導記録作成までの業務を効率的にサポートし、薬物治療の安全性を高めることを目的とするデータベースの構築を行った。医薬品ごとに具体的な確認・指示項目をデータ化したことで、個々の患者に合わせて必要な情報を必要なタイミングで容易に抽出することが可能となり、薬剤管理指導業務の標準化、効率化に寄与できると考える。